

京薬大初の認定薬剤師

認定証授与式行う

京都薬科大学(京都府)は先ごろ、薬剤師認定制度認定機構(CPC)の認定を取得してから初めてとなる認定薬剤師認定証授与式を行った。

同大学は、西日本の薬系大学で2番目にCPC認定研修機関(認定番号G24)として認定取得した。OBに限らず、全ての薬剤師を対象に生涯研

修認定薬剤師制度を展開している。

その第1号「京都薬科大学 研修認定薬剤師」となった受講者は、兵庫県にある医療福祉センター(医療型重度身障児入所施設)の薬局に勤める小船亜紀氏(京薬大・86年卒)。

卒業後、外資系医薬品メーカーの試験開発室および薬事部で計11年勤務してから結婚退職。7年のブランクを経てチェーンドラッグのパート薬剤師として10年間、調剤に携わる。卒業30年の同窓会で卒業式に招かれた際、6年制薬剤師の可能性について再認識したことが受講のきっかけになったという。

「卒業教育によって在宅介護支援や未病、セルフメディケーションなど薬剤師を取り巻く現状を知った。大学の息子に頑張る母の姿を見せたい気持ちも強かった」と自宅から片道1時間半以上かけて必要な40単位を修得した。



後藤直正学長より栄誉ある第1号認定証を授与された小船亜紀氏

受講者約350人中トップを切った認定。

「阪神・淡路や東日本の大震災における派遣の他、身近な休日診療の応援すら自分のできるのかと、ためらってきた。これからは自信を持って臨める」と後進にメッセージを送る。

地域包括ケア構築の過程で薬剤師の薬学的専門性の重要性が増す中、京薬ブランドの研修認定薬剤師に寄せられる期待も高まりそうだ。